

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【難波小学校】

<第1. 2学年：すてきな難波>

- ① 「目標 14. 海の豊かさを守る」ための働きかけとして、どんなことをするのか理解させるため、SDGsに関する絵本を使って読み聞かせを行った。



- ② 難波の自然を大切にしようと海岸清掃を行った。



児童の感想

さいしょはきれいとおもったけど、さがすとごみは、いっぱいありました。プラスチックがたくさんあったので、びっくりしました。うみがきれいになったので、すっきりしました。

- ③ 学校に帰り、拾ったごみの分別を行った。様々なものがあり、子どもたちは、一生懸命分別した後、川から海へと流れ着くごみがあることも知り美しい海岸にするためにも、ポイ捨てをしないという思いをもった。



- ④ 持ち帰った貝殻や身近な材料を使って、小物作りを行った。学習を通して、子どもたちは、難波の海を大切にしようという意識をもつことができた。また、拾ってきた貝殻や砂、モールや色紙などを使って小物を作り、再利用することの大切さも学んだ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【難波小学校】

<第3・4学年：ふるさと難波>

1年間の世話の仕方をゲストティーチャーに教わりながら、みかんの世話に取り組んでいる。

12月にはゲストティーチャーのみかん畑に行き、紅まどんなの収穫体験をさせていただいた。収穫の仕方や紅まどんなのおいしい見分け方などを教わり、丁寧に収穫をした。自分たちが収穫した紅まどんなを山で食べる貴重な経験をして、物を育てて収穫する楽しさを味わった。また、キャリーにいっぱい収穫した果実を苦労して車まで運んだり、木のトゲの危険に気付いたり、勤労の大変さを体験した。

学校にお借りしている10本の柑橘の木の世話にも挑戦している。水やりや除草作業に1年間継続して取り組み、やっと今年は20個ほど収穫することができた。プロのみかん栽培との違いを実感することができた。

<第4学年：住みよいくらしをつくる>

SDGs コーナーの本から、世界にはまだまだ安全できれいな水がない地域があることを知り、みかんの水やりでも水を大切にしないといけないと意識して活動するようになった。いろいろな本を読むことで、SDGsの視点で行動することが多くなった。

プラスチックごみが世界で大量に出ていることや困っている地域があることを知り、プラスチックごみが出るものを控えるよう、みんなに呼びかけた。プラスチックごみのかけらを見かけたときにはすぐに拾ってごみ箱に入れる児童の姿も見られた。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【難波小学校】

<第5・6学年：すてきな難波>



① 難波小学校に保管してあった土器が、難波地区から出土された貴重なものであることを知った。そこで、難波地区にある古墳や、そこから出土された土器について調べ、難波地区についてもっと詳しく知ることにした。難波地区の古墳について、インターネットや地域読本「なんば」で調べ学習を行ったが、詳しく知ることができなかった。どうしたら詳しく知ることができるのか学級で話し合い、専門的な知識をもつ人から詳しい話を聞きたいという意見が出た。そこで、松山考古館に行き、詳しい話を伺うことに決めた。

② 松山考古館では、難波地区出身である学芸員の方に、奥谷古墳や、鎌大師古墳、新城古墳などについて詳しく説明していただいた。難波地区にたくさんの古墳があることや、そこから貴重な出土品が発掘されていることに驚くと同時に、自分たちの住む難波という場所の素晴らしさを理解することができた。その後、難波地区の古墳から出土された土器を見せていただいた。現在は破損箇所の修復作業中であり、隅々まで丁寧に修復されている土器の様子を見て、本当に貴重な物が難波地区から出土されたことを感じ取ることができた。

児童からは、「自分たちの住む地域にこんなに貴重な場所がたくさんあることを知り、より難波のことが好きになった。」や「これからも難波の場所や歴史など、地域のことについてもっと知りたい。」といった感想が聞かれた。

今回学んだことを、今後の総合や他教科の学習にも生かしていきたい。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【難波小学校】

<第5・6学年：すてきな難波～庄の偉人、石井南放について
知ろう～>



- ① 松山の様々な偉人を知るために学級で「ふるさと松山学」を読んだ。その中に、難波地区出身の偉人である「石井南放」という人物がいることに気付いた。石井南放とはどのような人物で、どのようなことをしてきた人物なのかを話し合い、全員で調べることにした。
- ② 石井南放について詳しく調べるために、「ふるさと松山学」やインターネットを用いて調べ学習を行った。難波地区の庄出身である石井南方は、生涯多くの松の水墨画を描いた人物であり、愛媛の美術教育をリードしながら、えひめこども美術展を始めた人物でもあることを知った。また、石井南放の作品が自分たちの過ごす難波小学校や北条ふるさと館にあることも知った。
- ③ 難波小学校の校長室に飾ってある石井南放の壮大な松の絵を鑑賞し、石井南方の作品をもっと見たいという意欲が湧いた。そこで、北条ふるさと館へ行き、より多くの石井南放の松の作品を鑑賞することに決めた。
- ④ 北条ふるさと館にある石井南放のたくさんの松の作品を鑑賞し、見て感じたことや感想をまとめた。墨の濃淡のみで描かれた松の迫力や、繊細かつ鮮明に描かれる松の葉や枝々などに感動したという感想や、自分たちの住む地域にこのような偉人がいたことを誇りに思うなどの感想が見られた。今回の学習を通して、これからも難波地区の偉人や、良いところについて学習を続けて行きたいという意欲を高めることができた。

